

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

未来への展望に立ち、知・徳・体・創の調和がとれ、豊かな感性と創造力あふれる生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

きたえる学校

・自ら考え、進んで学ぶ人になろう ・情操を高め、心豊かな人になろう ・心身をきたえ、たくましい人になろう

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ・知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等を涵養し、「確かな学力」の向上を図る。
- ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現し、各教科の基礎学力及び学習の基盤となる資質・能力の育成を図る。
- ・特別支援学級設置校である利点を生かし、特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習を推進し、多様性を尊重し共生社会を実現する態度を養う。
- ・キャリア教育を充実させ、将来にわたる生き方と自己実現を進め、将来への展望性をはぐくむ。
- ・コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、様々な災害を想定した教育活動を進め、学習環境の安全・安心を最優先に保障する。

(3) 特色ある学校づくりのための基本方針

- ・生徒一人一台のタブレット端末環境の整備など、ICT機器を効果的に活用して学びの個別最適化を実現し学力向上を図る。
- ・「銀座の地域特性を生かした教育」を推進し、地域理解、日本の伝統文化の理解、国際教育及び環境、食育、キャリア教育、消費者教育の充実を図る。

2 指導の重点

学校評価及び各種調査等の結果を踏まえ、個に応じた学習指導及び生徒理解を基本とする生徒指導を実現する。

(1) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等

ア 各教科

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成する。
- ・ICT機器を活用した学習を推進し、学習の基盤となる資質・能力（問題発見・解決能力、言語能力及び情報活用能力）の育成を図るとともに、ドリルソフトを活用し朝学習、家庭学習を充実させ各教科の知識の定着を図る。
- ・銀座タイム及び家庭学習において、ドリルソフトを活用し、基礎・基本の定着及び自らの学習を調整する学習習慣を身に付けさせる。

イ 道徳科

- ・「考え、議論する道徳」の実践を取り入れ物事を多面的・多角的に考える「特別の教科 道徳」の授業改善を推進し、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を育てる。
- ・「いじめは絶対に許されない」との認識に立って、人権尊重の視点から自分自身のこととして考え、議論する授業を積極的に展開し、いじめ防止の取組を推進する。
- ・情報通信機器やインターネット、SNSの利用に関する情報モラル教育を推進し、正しい情報を元に適切に判断し行動しようとする態度の育成を図る。

ウ 総合的な学習の時間[名称 総合学習]

- ・ESD、キャリア教育、環境教育、食育などをテーマとした3年間を見通した指導計画を作成し、各教科間で関連させた横断的・総合的な学習活動の充実を図る。
- ・生徒自らが身近な日常生活の中から課題を設定し、課題解決の創意工夫を生かした探求的な学習活動の充実を図る。

エ 特別活動

- ・育成する生徒の姿を明確にした指導計画を作成し、3年間を通じた計画的・継続的な指導を通して、生徒の自発的・自治的な活動の充実を図る。
- ・生徒会や委員会活動を通して、集団の一員としての責任感をもたせ貢献しようとする意欲を高める指導の充実を図る。
- ・ボランティア活動等の体験活動をととして、地域社会の一員としての意識を高め、公共心や奉仕の心を身に付けさせる。

(2) 特色ある教育活動

- ・通常学級と特別支援学級との共同学習や交流活動の推進を通して、多様性を認め共生社会を実現する態度を養う。
- ・ペットボトルキャップ回収活動、地域清掃、募金活動、被災地復興支援活動への参加を推進する取組を通して、地域や社会に貢献するボランティアの精神を養う。
- ・本校の立地を生かし、歌舞伎の学習や鑑賞教室の実施をすることで、日本の伝統文化への理解を深める学習活動の充実を図るとともに、地域理解学習を推進する。
- ・オリンピック・パラリンピック教育の取組内容を継続・発展するための学校2020レガシーとして、持続可能な社会の担い手をつくるためのESDを進める。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ・生徒に規範意識と自己指導力を育むために、自ら考え、判断し、主体的に解決する力を養い、心豊かで規則正しい集団生活を送る意識を育てる。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめは決して許さない態度を育むことに重点を置いた指導やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- ・毎月の安全指導や避難訓練のほか、保護者への引き渡し訓練を通して、各種災害、不審者、Jアラートの対応や防災への意識を高め、適切な判断と行動を身に付ける安全教育の推進を図る。
- ・セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を実施し、生徒の危機回避能力や判断力・対応力を高める安全教育を充実させ生徒の健全育成を図る。
- ・校内委員会を毎週開催し、連携型個別指導計画や個別の教育支援計画を基に巡回指導教員等と連携し、生徒一人一人の実態に応じた組織的・計画的な特別支援教育の充実を図る。
- ・「中央区立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき、外部の人材を活用など学校の部活動の方針を定め、計画的な運営を通して、生徒の個性伸長を図る。

イ 進路指導

- ・3年間を見通した進路指導計画を基に、自己の個性や能力に応じた進路を選択する能力を身に付けさせ、自己実現に向けた意欲を高めるキャリア教育の推進を図る。
- ・小学校及び高等学校の連続したキャリア教育を進めるため、キャリアパスポートを活用し、生徒の自己理解を深める。

3 学年別授業時数配当表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	英語	道徳	学活	総合	計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

1 特別支援学級(1組)の教育目標

高く深い人権尊重の精神を培い、将来の自立に向けて主体的に取り組む生徒の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

- ・自ら進んで学ぶ態度と、自主的な生活を営むために必要な基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。
- ・基本的な生活習慣の形成・定着を図り、主体的に活動する力を育成する。
- ・自らの思いや考えを適切に表現し、伝える力を育成する。
- ・互いを認め合い、思いやりをもって行動する力を育成する。
- ・健康な身体、豊かな心情、健全な社会性を育成する。
- ・働く意欲を培い、生活する力を高め、社会自立を目指す。

2 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

- ・コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、様々な災害を想定した教育活動を進め、学習環境の安全・安心を最優先に保障する。
- ・全教科、領域においてICT機器を効果的に活用した授業改善を推進し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現し基礎学力の定着を図る。
- ・全教育活動を通して、生徒の発達段階に応じた人権教育を推進する。
- ・教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びの場を整備し、個別指導計画とも関連させながら成就感や達成感を味わえるような指導を工夫し、自立や社会参加に向けた力を向上させる。
- ・学習の

3 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動の指導の重点

ア 各教科

- ・個別指導計画に基づいた実践を通して、積極的に学習に取り組む姿勢や態度を育てる。
- ・ICT機器を活用した学習を推進し、学習の基盤となる資質・能力（問題発見・解決能力、言語能力及び情報活用能力）の育成を図るとともに、ドリルソフトを活用し朝学習、家庭学習を充実させ各教科の知識の定着を図る。

イ 道徳科

- ・考え、意見を交わし合う実践を取り入れた授業改善を進め、生徒が物事を多面的・多角的に捉えるとともに判断力を育てる。
- ・「命と心の授業」、道徳授業地区公開講座等を活用し、自他の生命の大切さについて気付かせる。

ウ 総合的な学習の時間

- ・生徒自ら考え主体的に判断し、思いや考えを人に伝える力を育てる。そのために、年間を通して通常の学級や他校の生徒との交流学习を推進する。
- ・他校との交流行事、遠足・校外学習、宿泊学習等の際には、調べ学習やまとめ学習にICT機器を積極的に活用し、興味・関心を広げるとともに表現力・発表力を向上させる。また、社会、理科を始め各教科とも関連付けて行う。

エ 特別活動

- ・係活動等では、役割意識を高める自主的、自発的、自治的な活動を推進する。
- ・経験を広め、望ましい社会性と対人関係を育てるため、委員会活動、学校内外の行事、部活動、ボランティア活動等に積極的に参加させる。

オ 自立活動

- ・健康の保持、体力の向上を目指し、持久力、筋力、瞬発力に効果のあるトレーニング方法を積極的に取り入れ、持久走や体育等で日常的に実施する。

- ・コミュニケーション能力や表現力の向上を図り、よりよい人間関係を形成できるように理解言語、表出言語を増やす指導を行う。また、生徒の能力や発達段階に則し、個々の課題を押さえた一斉及び小集団指導や個別指導を、全教育活動を通して行う。

(2) その他の活動

- ・年間を通して、通常の学級や他校との行事における交流及び共同学習の機会を積極的に設ける。また、各交流においては、ねらいを明確にし、計画的に継続して行う。
- ・中央区の地域特性を生かした地域理解、日本の伝統文化の理解、国際教育及び環境、食育、キャリア教育、消費者教育の充実を図る。

(3) 生活指導

- ・個々の課題や発達段階に見合った基本的生活習慣の定着を図る。
- ・集団行動を通して他者と協力すること、自分の役割に責任をもつことの大切さを理解させる。
- ・他者を尊重し、いじめや暴力を許さない態度を育てるとともに自己の感情をコントロールできるように指導を行う。学校での生徒の心身の状態、家庭からの連絡等により生徒の生活状況を把握し、学級や家庭において健康で安全な生活が送れるようにする。

(4) 進路指導

- ・3年間を見通したキャリア教育をすすめ、中学校卒業後の進路選択や将来の生活について、生徒と保護者が具体的かつ主体的に考え、適切な進路選択ができるようにする。そのため、現場実習先の見学、卒業生や高等部の教職員、企業の方の話しを聞く会等進路や将来に向けて学校と家庭が連携した学習する機会を積極的に・計画的に設ける。
- ・個別の教育支援計画を保護者の同意のもと関係諸機関と連携して作成し、進路指導に生かす。

4 教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- ・生徒一人一台のタブレット端末環境を効果的に活用して学びの個別最適化を実現し、学力向上を図る。
- ・校内行事、委員会活動、授業、給食、部活動等の学校生活全般を通して日常的に継続した通常の学級の生徒と交流を図る。また、他区の中学校特別支援学級とも共に学び合う機会をもつ。
- ・年3回、特別支援教育アドバイザーに健康・医療面・進路・学習及び生活指導面での配慮等を相談し、生徒理解を深める。
- ・これまでのオリンピック・パラリンピック教育の取組内容を継続し発展するため、「銀座中学校2020レガシー」をESDで構築し、全教育活動で取り組む。
- ・都立臨海青海特別支援学校（中央区の特別支援教育センター校）の特別支援教育コーディネーターと連携し、障害の状態や特性等にに応じた教育の推進、自立と社会参加に向け、学びをとおして生活する力の伸長、豊かな人間性や社会性の育成を目指す。

5 年間授業時数配当表

教科 学年	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 体	職 家	英 語	道 徳	特 活	生 活 単 元	作 業	総 合	計
1 年	140	35	105	35	70	70	140	175	35	35	35	70	35	70	1015
2 年	140	35	105	35	70	70	140	175	35	35	35	70	35	70	1015
3 年	140	35	105	35	70	70	140	175	35	35	35	70	35	75	1015